

2-O-9

アクティブラーニングが加速する“回転式円形ホワイトボード”の研究開発

柳 敏晴
伴仲謙欣

中教審のいわゆる「質的転換答申（H24）」でも示されたように、現在の高等教育現場には、従来の一方向的に知識を伝達する受動的授業形態から、学生が主体的に学んでいく能動的学修（アクティブラーニング）への転換が期待されている。しかしながら、その質を担保する教育ツールやツールと一体となって効果を発揮しうる教育方法の開発は、決して十分とは言えない。

教育イノベーション機構では、共通教育科目「キャリア基礎」の中で、円形の大型用紙を活用した“車座グループワーク”を実践し、その効果を認めてきた。また、平成26年度の文科省大学教育再生加速プログラム・AP（Acceleration Program）においては、円形用紙を用いた教育方法を発展させた「円形ホワイトボードラーニング」を提案した。このような経緯を踏まえた先般、円形ホワイトボードに回転機構を加えた着想により、特許査定を受けるに到った。回転式の円形ホワイトボードは、「手で書いて考える」、「考えを可視化する」、「グループメンバーが同時にアイデアを共有する」という一連の行為を効果的に行い、アナログの意義を再発見するための教育ツールである。

今後は、製品化へ向けた働きかけを行うとともに、ツールを有効活用する教育方法のブラッシュアップや理論・評価の検討を行い、本学の教育実践の中に積極的に取り入れていく予定である。これをもって「Tokiwa 教育」の質的転換やブランディング、大学の知的財産活動活性化の一助としたい。